

黎明

仙台市立錦ヶ丘中学校
第一学年 No. 31
2021. 1. 18
文責 千葉佐和子

防災教育を振り返って

6月から、地震や台風など災害について学んできました。そのまとめとして11月に校外学習として、被災地に行き実際に起きた出来事やその後の復興について現地の方々から直接聞くことができました。12月にそのまとめとして、クラス内で発表会を行いました。そして最後に、今まで学習してきた中で、自分が感じたこと、身に付いた力などまとめました。

それぞれが、学習したことを自分の中でしっかりまとめられたと思います。下記に、何人かの感想をご紹介します。

防災教育を通して、何が人のためになったり、震災が起きたらどのようなことをすれば良いのか、という風に考えました。そして、震災が起きたら、いち早く避難することが大事ということが分かりました。身についた力は「震災について考え、まとめる」という力だと思います。11月の後輩学習では、南三陸町に行って分かったこと、疑問に思ったことなどをまとめることができました。

やはり現地に行かなければ分からなかった疑問や講師、語り部の方に聞かなければ解決できなかった問題がたくさんありました。6月から今までの防災教育を通して、感じたことがあります。それは、「これまで以上に、人の気持ちを考えていかなければならない」です。校外学習の時に、語り部さんや講師の方の東日本大震災に対する気持ちを聞きました。すると「いつ南三陸で地震が起きるかわからず怖いから、二度とここには住まない」という声や「南三陸での地震から目を背けてはいけなから、ここに住み続ける」という声もありました。人によって物事への考え方や気持ちが違うからこそ、これまで以上に人の気持ちを考えていこうと感じました。



テレビ局の取材が入りました。



いろいろな課題を使った防災教育、地域で起きる災害のケースで考えたり、校長先生の実際の講話を聞いて、防災教育はすごく大切なものだ分かりました。そして、防災教育は全て自分にありえるケースが多いので、ニュースを見ていて考えられることが増えてきていると感じました。住んでいる地域「錦ヶ丘」は災害が少ないほうですが、災害はいつあるのか予想できないので、日々備蓄を確認したりして備えていきたいです。防災教育をしているときは、自分は関係ない、どうでもいいと思う人たくさんいますが、私は今年度の防災教育で「防災教育の意義」を少しでも考えられたと思います。来年、再来年になっても、1年生で学んだことをしっかり振り返って防災教育をしっかり学んでいきたいです。そして、みんなと意見を共有し、学びを深めていきたいなと思います。それと大人になってもわすれないようにしたいです。

避難訓練はとても面倒臭いものだと思っていたが、災害についてたくさんのことを学んで、とても大切な基本的なものだと分かった。地震のときは、避難訓練の動きが基本になるし、動きを知っていることで焦らず動ける。戸倉小学校の児童もスムーズに避難したから助かったと思う。また、台風のときはむやみに外に出ないということを知った。丈夫な建物の中なら少しは安心する。どんな災害のときでも、ニュースを確認することが大事だと思う。警報や緊急速報が発令されていても知らなければ被害にあうかもしれないし、逆に知っていれば被害を抑えられると思う。また、どんなときでも災害に対する知識があるといいなと思います。焦らず行動することにつながるし、他の人を助けることもできます。それから、震災のことを忘れるのは絶対にいやだなと思いました。忘れてしまうのは次がきたときに怖いし、次の世代につなげていくことで防災に力を入れたり、対策をして被害を小さくできるからです。

私たちは、震災で多くのものを失ったけれど、少しずつ取り戻すことができます。これは、たくさんの方が災害について理解して、協力してくれたからだだと思います。だから知識や思いを伝えていくことが大事だと思います。



私が防災教育を通して感じたことは、自分が生きている中で起きることはわからないから、常に学ぶことで人生をよりよいものになるのだと全体を通して感じました。

また、最初は本当に意味があるのかと少しふざけていたけれど、何度も授業を受ける度に少しずつやる気が芽生え、今になっては、「この行動をとるとこうなる」や「そうなるんだ」といった自分の中で返事をしてしまうほど防災教育が楽しく感じています。身についた力は、いざ地震や津波が起こったとしても今まで培ったものが発揮されて、落ち着いた判断がとれるのではないかと思います。どれだけ辛いと感じたり、思ったりしても、一步一步前に進みこれからの人生を今よりもさらに良いものにしていきたいと感じました。

他の地域でも自分より辛い思いをしてきたと思うし、自分よりも苦しいやだと考える人もいると思うけど、そういう苦しい思いをした人の支えとなり、一人でも多くの人を救える人になりたいです。交流を交わし、多くの人と親しみあえるように頑張っていきたいです。どれだけの年月を過ごしているとしても、震災でできた心の傷はなおすことはできないと感じた。

最初は、マスター試験をやって全くできなかったけれど、防災教育を通して、たくさんことを学ぶことができました。私は女川町にいったけれど、他の2つに行った人たちの話を聞いて、震災に対する強い思いは、みんな同じということに気づくことができました。震災以前より、よりよい生活、安心して暮らせる場所を私たち自身で作っていかねばならないと思いました。発表会を行って、違う場所に行った人の話を聞いて、他の場所での被害状況や分かったことなど知らないことをたくさん知れたし、良い経験をすることができました。明日が必ず来るとは限らないので、その日のうちに気持ちを伝えたり、後悔しないような生活を送りたいと思いました。このクラスももう少しで終わってしまうけど、一日一日を大切に過ごしたり仲間との絆を深めたり、自分にできることをやって楽しく過ごしたいです。防災教育をやって、これからの生活に生かせることがたくさんあるので、みんなに伝えられることは伝えていきたいと思います。